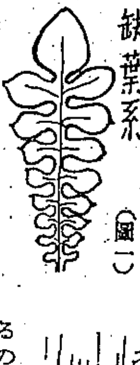
# 大根の採種

大根は本省に於いては俗に「菜頭」と呼ばれ、最も普通に見られる野菜で、その栽培面積は一年を通じて一萬五千ヘクタールに達し、全省に於ける野菜栽培面積の約六分の一を占めている。大根栽培の利益は、裏作として短期間内に收穫が可能な上に、葉は綠肥として利用できる點にある。

本省に於いて、栽培されている大根の品種には色々あるが、大別して次の二種類に分けられる。

**一、缺葉系**：この種の大根の特チョウは圖一の如く葉の緣（フチ）に深い刻（キザミ）がある。葉は地面に對して斜に又は平面に生長し、根部は大きくて長い。普通に中生或は晩生（中位に或は遲く收穫できる）で、低溫に於ける栽培に適し、高溫の氣候では抽苔開花する。



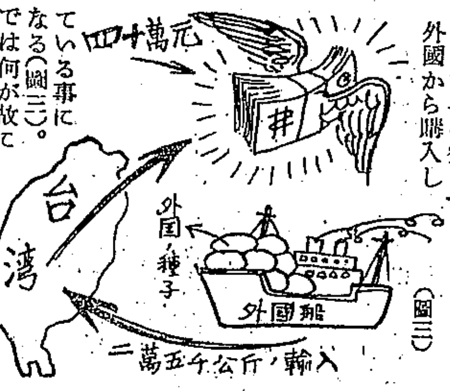
（圖一）

本省に於いて栽培されている品種には、美濃早生、聖護院、練馬、官重、時無、大梅花、小梅花などがあるが、大部分は多季水田の裏作として栽培されてをり、種子の多くは、日本などの外地から輸入されている。

**二、全葉緣系**：この種の大根の葉緣は圖二の如く、波狀をして居り、葉數が少く、直立して居る。根部は小さく、早生で高溫に於ける栽培に適し、低溫の場合は抽苔開花しやすい。主要な品種に找仔、研仔、多瓜白、六十日、四十日早などがあり、多くは夏秋に栽培され、平地に於いて採種が可能である。

（圖二）

これ等種子の大部分は外地から輸入して居り、毎年の輸入量は二萬五千公斤に達している。種子一公斤の値段は新台幣十六元しているから、毎年四十萬元と云ふ馬鹿にできない金を費して外國から購入している事になる（圖三）。

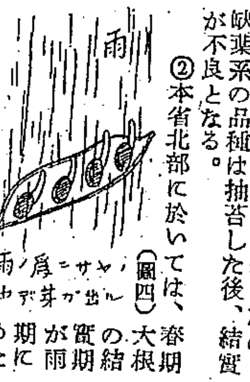


（圖三）

では何が故に本省に於いて採種が困難であるか、その理由として次の諸點を擧げる事ができる。

①本省では氣候が暑いため、缺葉系の品種は抽苔した後、結實が不良となる。

②本省北部に於いては、春期の大根の結實期が雨期にあたり、雨のために花の受精が困難になる。また連日の雨によつて圖四の如く莢（サヤ）の中で種子が發芽する事があり、調製が困難となる。

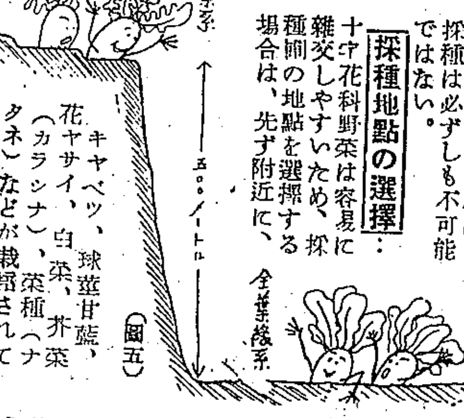


（圖四）

③十字花科の野菜（白菜、大根、キャベツなど）は雜交しやすいため、細心の注意と技術をもつて栽培にあたらないと、優良な種子を得がたい。

この樣に大根の採種は本省に於いては困難な點が多いが、然し、以下に述べる樣に採種地點の選擇、播種の時期を誤らず、採種の技術を心得て居れば、採種は必ずしも不可能ではない。

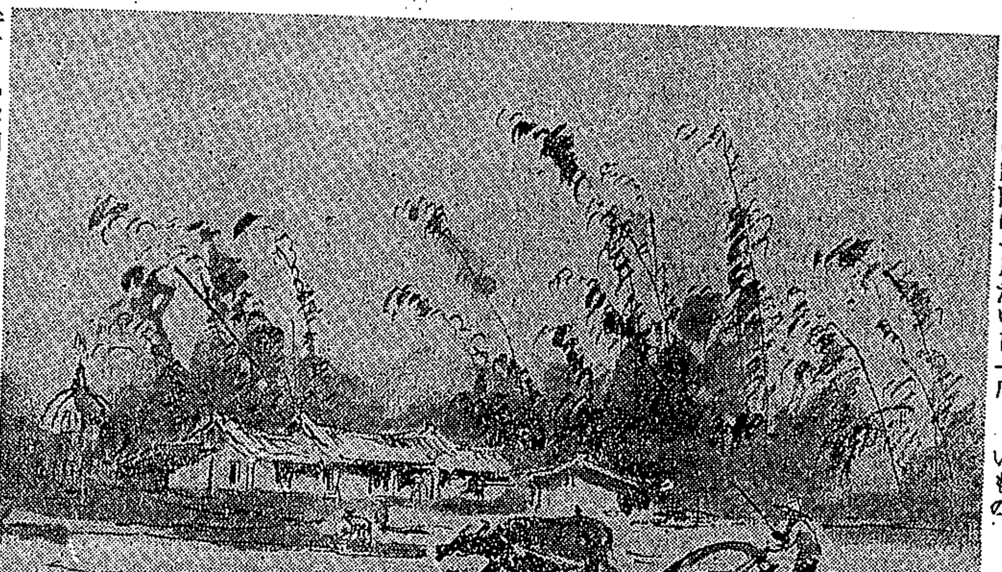
**採種地點の選擇**：十字花科野菜は容易に雜交しやすいため、採種圃の地點を選擇する場合は、先ず附近に、キャベツ、球莖甘藍、花ヤサイ、白菜、芥菜（カラシナ）、菜種（ナタネ）などが栽培されていない場所を選ぶ。故に山間のクボ地、或は海岸に近い園地の如く、外界から離れた所に栽培すれば花粉の雜交を避けられる。



（圖五）

第二に缺葉系大根は低溫度に於いて良く成長するため、圖五の如く採種は海拔五百メートル以上に於ける高冷地採種を行ふべきである。全葉緣系の大根は平地に於いても採種が可能である。

**整地と播種**：整地と播種は普通の栽培と同じで、條播方法により、條間の距離は一尺ないし一尺半ぐらいが適當である。播種期は八、九月が最適で、遲すぎると開花の時期が雨期に會ふ恐れがある。發芽後、行間に成長した大小の過ぎた幼苗や、色澤の惡い幼苗を二三回拔き取り株間の距離を一尺ぐらいにする。



春聯（第三同）…………藍蔭鼎

犁耕入田生白玉——鍬鋤道處出黃金

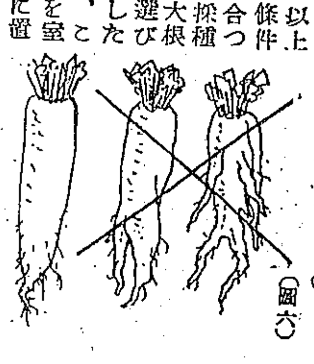
**切根移植**：採種用大根の生長を盛んにし、花期を早めて結實を良くする爲め、切根移植をする必要がある、その方法は、播種後、七十日ないし八十日經つたら、全部の大根を引き拔いて、地面に排列し、その中から優良なものを選んで移植する。選擇するに際しては、次の諸點に注意する。

（イ）圖六の如く根部の形が惡いものを避けて、正常な形をして居り、色、肉質の優良なものを選ぶ。

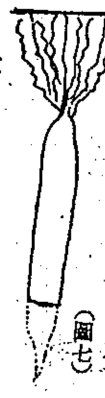
（ロ）葉部の形が正常で、各品種の特チョウを具へて居り、葉柄（葉のつけ根）の短いものが良い。

（ハ）根部が甘く、辛味の無いもの。

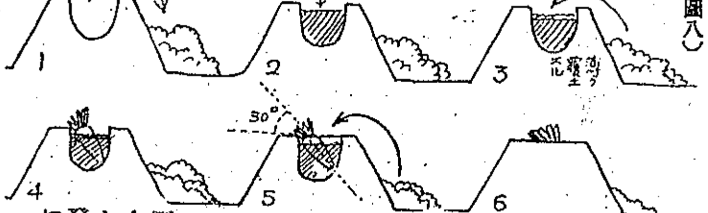
（ニ）病蟲害の無いもの。


（圖六）

以上の條件に合つた採種用大根を選び出したら、これを室内に置いて、一、二日ほどカゲ干しにして、少しばかり凋ませた後、圖七の如く葉柄を三寸ほど殘して切り取り、根部の長すぎるものは六寸—八寸の所で切り取つてしまう。次に切口に草木灰を塗り、乾いたら移植する。


（圖七）

切根移植を行ふと、細根の發生を促進し、根部の成長を健全にする上に、花芽の分化を促進し抽苔開花を早める。移植する土地は先ず碎土してから、高畦にする。畦の幅は三尺位にし、畦の上に小溝を掘り、その中に基肥を施した後、薄く覆土をする。次に大根の間の距離を二尺位にし、地面と約三〇度の斜角になる樣に置き、葉を南に向ける。この樣に大根を置いたら、鍬で大根の葉柄が地面の上に出る程度に覆土する。（圖八參照）覆土の際には壓力を加へて固くすると、幼根の發生が盛んになる。



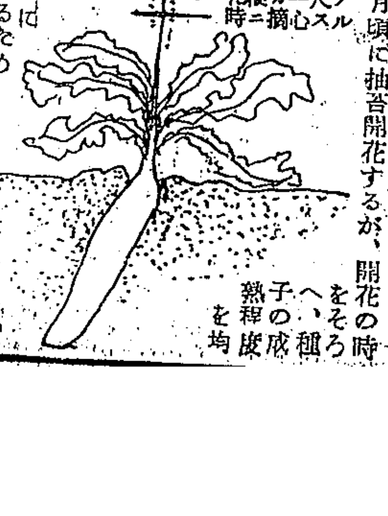
（圖八）

**施肥**：移植後の施肥は、基肥を移植する時に施すほか、根の生長を促進する爲に追肥を二回行ふ。參考までに肥料量の合計は次表の如くになる。基肥として施す堆肥と草木灰は移植數日前に、土中に鋤き込み、硫酸アンモニアと過燐酸石灰は移植する前に混合して、畦の小溝内に撒布する。第一次の追肥は移植後一ケ月半に施し、更に一ケ月半の後に第二次の追肥を行ふ。なほ追肥を施すごとに、根部が露出しない樣に培土を行ふ事を忘れてはならない。

一ヘクタールについての肥料量

| 肥料名 | 基肥量 | 追肥量（第一次） | 追肥量（第二次） | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 公斤 | 公斤 | 公斤 | 公斤 |
| 堆肥 | 六〇〇〇 | — | — | 六〇〇〇 |
| 草木灰 | 一二〇〇 | — | — | 一二〇〇 |
| 硫酸アンモニア | 二〇〇 | — | — | 二〇〇 |
| 過燐酸石灰 | 二〇〇 | 二〇〇 | — | 四〇〇 |
| 人糞尿 | — | 四〇〇〇 | 四〇〇〇 | 八〇〇〇 |

**開花期の處理**：大根は一、二月頃に抽苔開花するが、開花の時期をそろへ、種子の成熟程度を均一にするため、花梗が一尺伸びて來たら、長さ一尺ぐらいの所で摘心して分枝を促進する。（圖九を參照）



（圖九）

また開花の時には、花が蚜蟲の害を受けやすいから、常に注意して、蚜蟲を發見したら、すぐにデリス液かタバコ液またはB・H・Cで驅除する。なほ花梗は強風を受けると倒れやすいから、柱を立てて支へるべきである。（圖十參照）

（圖十）

**種子の調製**：大根は四五月になると實を結び、莢は黃色に變じて、內部の種子が飽滿する。種莢が黃金色をして來たら、晴天を選んで梗ごと拔き取つて、二、三日の間これを干し、充分に乾燥したら、脫穀機をもつて種子を脫粒させる。（雨天で脫粒ができない場合には、梗を軒下（ノキシタ）に掛けて風乾し、種子の發芽を防ぐ。）脫粒した後の種莢は、よく干した後、これを碎き、篩（フルヒ）にかけて、殘つた種子を取り出す。次に種子の全部を風選にかけて雜物を除くと、純種子を得る事ができる。毎ヘクタールについての種子生產は二五〇〇—三〇〇〇公斤の程度である。